

連

載 つながりをもどめて (1)

社会に潜む新たな福祉課題を考える

経済力の高まりによる様々な技術革新は、私たちの生活に豊かさをもたらしました。反面、多様な生活形態や価値観の急激な変容によってコミュニケーション力が弱まり、地域社会の中での相互的な関係が薄れ、結果として、社会的排除や摩擦、社会的孤立や孤独から様々な問題が生まれてきています。私たち福祉関係者は、これまでの福祉サービスの提供のみならず、人間尊重に根ざした地域社会を築くために、これらの問題を直視し、これからの支援方策を考えていくことが求められています。

本年度の連載は、これらの問題に取り組む様々な活動から、望ましい実践のあり方について考えていきます。第一回目の今回は、いま地域社会に潜在する様々な問題について整理してみたいと思います。

変革期にある社会福祉

終戦から六十年が経過した今日。「貧困からの脱出」を目標に取り組んできた社会福祉事業は、豊かな社会の実現により、その存在意義やあるべき姿の変容を求められています。

社会福祉基礎構造改革の集大成ともいえる「社会福祉法」の施行は、貧困者の救済を目指したこれまでの福祉事業のあり方を根本的に見直し、全ての国民の豊かで安心して生活を支えるサービスとして位置付けました。同時に、地域住民と社会福祉関係者が協力し、福祉サービスを必要とする地域住民が、地域社会の構成員として日常生活を営み、社会参加する機会が与えられるように努めなければ

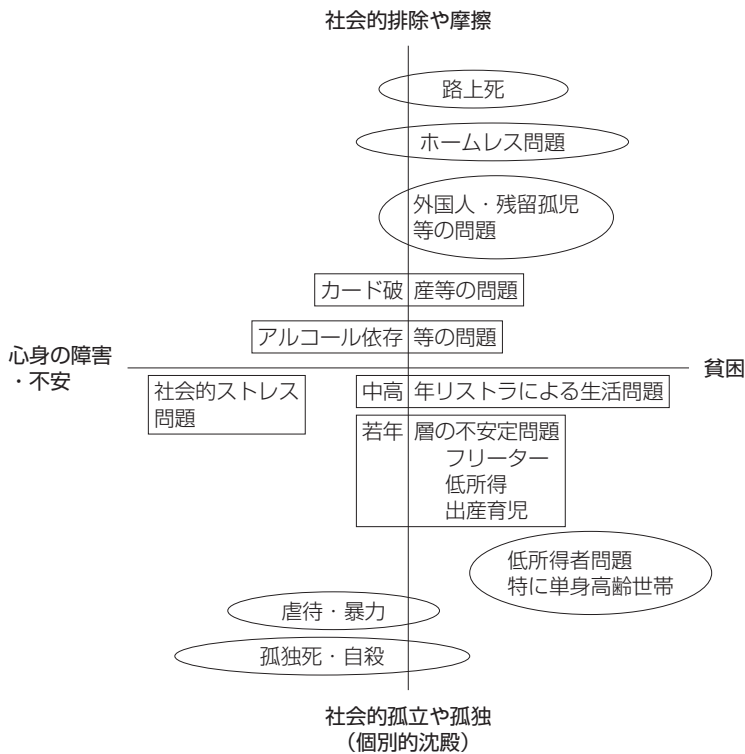
ならないといった「地域福祉の推進」をその目標に掲げ、住民相互が支え合うしくみづくりが不可欠だとされています。

複雑化する福祉問題の背景

社会福祉法の成立と同じ十二年度に、厚生労働省の「社会的援護を要する人々に対する社会福祉のあり方に関する検討会」(※)は、人としての尊厳をもつてその人らしい生活ができるよう、社会連帯による支援を行っていくという新たな社会福祉の理念を念頭に、これからの社会福祉のあり方についての報告をまとめています。

報告では、産業構造の変貌や雇用慣行の崩壊、成長型社会の終焉による企業リストラなどの「経済環境の急速な変化」や、世帯規模

(表1) 現代社会の社会福祉の諸問題



※横軸は貧困と、心身の障害・不安に基づく問題を示すが、縦軸はこれを現代社会との関連で見た問題性を示したもの
 ※各問題は相互に関連しあっている
 ※社会的排除や孤立の強いものほど制度から漏れやすく、福祉の支援が緊急に必要な

や家族による扶養機能の縮小など「家族の縮小」。また、都市機能の整備による住宅の変化や消費社会化、個人主義の蔓延など「都市環境の変化」。さらには、技術革新や社会経済の変化による、「人間や生活、労働をめぐる「価値観のゆらぎ」など、近年における社会経済環境の変化を踏まえ、現代における社会福祉の対象を、

①「心身の障害・不安」(社会的ストレス問題、アルコール依存等)
 ②「社会的排除や摩擦」(路上死、中国残留孤児、外国人の排除や摩

擦等)
 ③「社会的孤立や孤独」(孤独死、自殺、家庭内の虐待・暴力等)
 といった問題と重複・複合しながら検討する必要性を示しています(表1)。

何故問題が解決に至らないのか
 これらの問題が発生しながら、解決に至らないのは何故か。報告書ではその要因を、次のように整理しています。

①個人や地域にあつては、家族や地域のつながりの希薄化や職域の